

名鉄瀬戸線と、観音寺にある「道風公」・「弁財天」像建立の経緯

観音寺山門の前に、道風公と弁財天の像が立っています。

蓬萊七福神

現在、弁財天の前は周りが駐車場になっていますが、昭和 40 年頃までは池があって鯉、鮒、なまずなどの魚、亀なども多くいて、子ども達の遊び場となっていました。

人々からは弁天様の池として親しまれていました。

弁財天（弁才天）の本地仏は観音寺の本尊である「十一面観世音菩薩」ともいわれてはいますが、なぜ観音寺のお寺の前に七福神である弁才天の像が建立されたのでしょうか。調べてみると意外なことがわかりました。

この像は、現在の名鉄瀬戸線(当時瀬戸電機鉄道)の客誘致の一つとして、沿線の寺に民間信仰として人気の七福神を祀り、名古屋からの参拝客を運ぼうとして建立されたものでした。

瀬戸においては古くから窯業（瀬戸焼）が盛んであり、貨物輸送の需要は高く、鉄道の敷設は悲願でしたが、勧誘活動に失敗してしまいます。

明治 20 年代に当時、国が整備を進めていた中央本線勧誘活動において、国の鉄道委員会で「瀬戸ルート」に決まりましたが、第 4 期帝国議会で否決され、結局、勝川町の勧誘活動により、現在の高蔵寺ルートに決まりました。

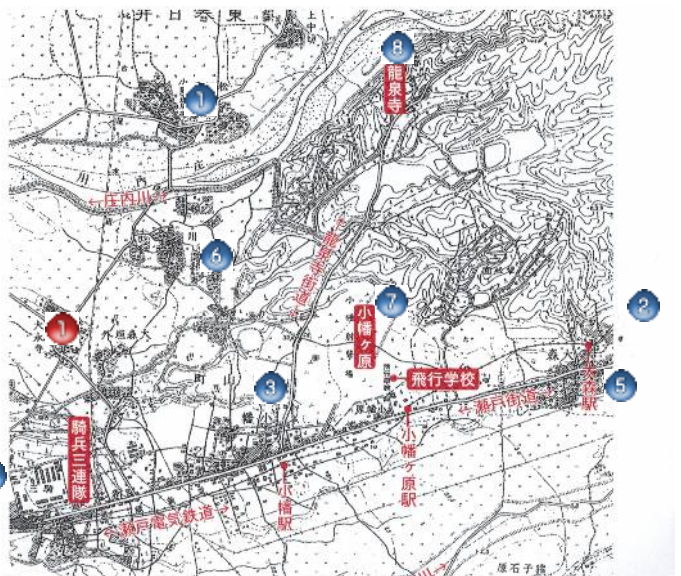
ただ、地元で鉄道を敷設すれば、接続点として中央本線に大曽根駅を開設するとの国の意向を取り付けたため、瀬戸 一大曽根間の鉄道敷設の気運が高まり、瀬戸の実業家らの出資により、瀬戸から矢田の鉄道敷設が明治 38 年（1905）実現しました。

しかし中央本線の大曽根駅はなかなか開業されなかったため、名古屋都心部への乗り入れを並行して進め、明治 44 年（1911）に全線開通しました。（いみじくも国鉄大曽根駅は明治 44 年 4 月に開業しました）

その後、瀬戸電は輸送力の増強と設備の近代化を図り、1929 年（昭和 4 年）12 月までに全線が複線化されました。

しかし、開業以来貨物輸送が収入の大きな割合を占めていたため、昭和恐慌などによる窯業の不況のあおりを受けて、業績は急速に悪化しました。

	仏像	寺院名	住所
①	弁財天	観音寺	春日井市松河戸町
②	恵比寿	良福寺	尾張旭市印場元町北山
③	大黒天	長慶寺	守山区小幡中
④	毘沙門天	宝勝寺	守山区市場
⑤	福祿寿	法輪寺	守山区大森
⑥	寿老人	長命寺	守山区白沢町
⑦	布袋尊	弘法寺	守山区小幡大屋敷(廃寺)
⑧	別格宝船	龍泉寺	守山区龍泉寺



名鉄瀬戸線と蓬萊七福神の寺 地図は昭和 8 年当時

①は大永寺(観音寺は大永寺の末寺)



明治 26 年 2 月 20 日付の新聞「新愛知」(現中日新聞の前身) 瀬戸ルートに決まったという報道

そこで、沿線の好況は瀬戸線の増収に結びつくことから、沿線に庶民に人気の七福神を祀って、名古屋からの参拝客を運ぼうとして、沿線の寺に蓬莱七福神が設けられることとなり、それぞれのお寺で最も相応しい神様を勧請することとしました。

観音寺の本尊十一面観音様の垂迹は市杵島姫命であり、市杵島姫命は弁才天と同一視されており、水の神様でもあることから、観音寺には、昭和4年に弁財天が建立されましたが、同時期に遺跡保存会や有志の寄贈により「道風公像」が建立されています。



この頃は、松河戸で道風公顕彰活動が盛んに行われ始めたころでもあり、遺跡保存会は、道風公顕彰活動の目玉として道風公像の建立と同時に、観音寺に弁財天勧請を瀬戸に働きかけました。

七福神の参拝は毎月7日に行われ、1月、4月、10月は大祭が行われ、参拝者には時の物を入れた五目御飯などを提供していましたが、この行事も太平洋戦争の悪化に伴い消滅しました。しかし道風公顕彰活動は、その後、小野小学校席上揮毫大会、道風祭と活性化していきます。

昭和4年9月15日に開催された「弁財天像」、「小野道風像」の除幕式に際し、当時の鳥居松村長代理助役であった河原氏の祝辞が残されています。

「本日茲ニ故小野道風公ノ立像除幕式ヲ兼ネ七福神ノ一ツナル辨財天ノ奉安式ヲ挙行セラルルニ當リ本職ノ列スルヲ得タルハ光榮トスル処ナリ(中略)

此ノ地ノ生ナル大書家道風公ノ遺跡トシテ餘リニ寂シキヲ嘆ジ本村ノ隣接勝川町在山口悦太郎氏ハ武田観音寺住職ニ諮リ自ラ永劫不滅ノ立像建立を企画シ月ヲ閲スルコト数ヶ月今ヤ其ノ功全ク竣リ本日ヲトシテ除幕ノ式典ヲ挙行セラル 誠ニ慶スベキナリ(中略)

尚之レガ計畫ノ實施遂行ニ方リテハ武田良道師ヲ始メトシ瀬戸電気鉄道株式会社竝松河戸部落民諸氏ノ 尠少ナラザル後援ニヨリ茲ニ崇高ナル道風公ノ風貌ニ接シ得且辨財天ニ詣ツル事ヲ得ルナリ(後略)」

現代語訳 (AI での翻訳)

本日ここに、小野道風公の立像除幕式と、七福神の石柱である弁才天の奉安式が同時に行われることとなり、私も列席できたことを大変光栄に思います。

この地にゆかりのある大書家・道風公の遺跡があまりにも寂しいことを嘆き、勝川町の山口悦太郎氏が武田観音寺の住職に相談し、自ら永く残る立像の建立を企画しました。数か月にわたる準備を経て、ついに完成し、本日除幕式を迎えることとなりました。誠に喜ばしいことです。

なお、この計画の実現にあたっては、武田良道師をはじめ、瀬戸電気鉄道株式会社や松河戸地区の住民の方々の多大な協力がありました。そのおかげで、私たちはここに道風公の尊い姿に接し、さらに弁才天に参拝することができるようになったのです。

地域総出の協力によるこの事業は、郷土の偉人である小野道風顕彰活動という文化事業と、芸術・学問・財福の神である弁財天を祀ることで、地域の信仰と文化を結びつけた画期的なものとなりました。

二体の像(道風公像、弁財天像)は、「山口悦太郎」によって企画され、観音寺、瀬戸電、松河戸民の協力で「雲岳」によって製作されました。

制作者の雲岳は、浅野雲岳で、名古屋の日比野の人で、他に崇彦寺の勝川大弘法大師像など、春日井に多くのコンクリート像を残しています。



小野道風像



弁財天像